
BYE BYE

翠

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

B Y E B Y E

【Nコード】

N 4 6 7 1 A

【作者名】

翠

【あらすじ】

卒業式を終えた今、私がしなきゃいけないのは彼に思いを伝えること……。今までの自分にバイバイ……。

（前書き）

少し書いてみたくなりまして。
ありがちな話ですが読んでみてください。

静かな鼻をすする音だけが響く卒業式を終えた今、私はたくさんの事にさようならを告げて回っている。

ちっぴけな考えしか持てない自分。

人を傷つけてしまう心を持った自分。

人の目ばかり気にしてる自分。

そして・・・気持ちをつまく伝えられない自分に。

冷たい校舎を静かに歩く。

使っていた机。

黙っていたけど友達とふざけていてへこましてしまった棚。

友達の机。

昼休みに座り込んで喋った日のあたるベランダ。

教卓。

細かいことにつるさい教師が神経質にチョークを動かしていた。

全てにたくさんの人の想いが詰まっている。

授業に集中できなくて窓から外を眺めたあの日。

部活中に意見が食い違って言い争いになったこともあつた。

校舎の冷たい空気を胸一杯に吸い込んで歩き続ける。

もう少し。

あの角を曲がってすぐの階段に居るはずだ。

私が今までの自分にさよならを言うのに欠かせない人が。

私が好きになった人。

すごく不良っぽい感じなのに話してみるとすごく明るくて、おもしろくて、優しくて・・・。

1人、空を見上げて遠くを見つめていた。
行き交う人の足に潰されそうになるてんと虫をそつと草の上の
せてあげてた。

落ち込んでる人を見るとさりげなく声をかけて話を聞いてあげてた。
いつでも彼は眩しくて・・・私の憧れだった。

話す時はいつも素直になれなくて、言ってから後悔してたっけ。

彼が好き。

心から笑い合える人。

人の心を受け入れることの出来る人。

彼の全てが私を励ましていた。

眼差し。後姿。声。

全てに私は励まされてきた。

それはこれからもきつと変わることはない。

鼓動がテンポ良くリズムを刻んでいる。

少しの不安と少しの緊張。

あと数秒で彼の黒く染めた髪が見えるはず・・・。

バイバイ。

ちっばけな自分。

バイバイ。

人の心を知ろうとしない自分。

階段に腰掛ける彼は私を見て微笑んだ。

バイバイ・・・。

うまく気持ちを伝えられない自分。

「好きです。」

彼の目をしっかりと見つめて言う。

大きく見開かれた彼の瞳に自分が映る。

彼はゆっくりと腰を上げると私をもう一度見つめた。

私たちは唇を重ねた。

少し背伸びした私と少し屈む彼。

午後の日差しが私たちを映し出す。

これからの日々を私たちはどう生きていくのかな・・・。

私は彼の腕の中でそんなことを思った。

きつと幸せな時が待っている。

B Y E B Y E

弱っちい自分。

きつと近くに幸せの欠片は落ちている・・・。

（後書き）

読んでいただき有難うございます。

人それぞれの幸せを見つけられるといいな と思います。

ご意見・ご感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4671a/>

BYE BYE

2010年10月11日12時01分発行